

山行報告書

受付 No.	168	登山地・ルート	甲武信ヶ岳～釜ノ沢より
目的	名溪の遡行を楽しむ&100名山ハント		
メンバー	L: 大山、松野		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
9・4・土	晴れ	浜松＝西沢溪谷◎～山ノ神～魚留の滝～両門の滝～テント場 7:19 9:44 11:45 13:00 13:46
9・5・日	晴れ	テント場～水師沢出合～甲武信小屋～甲武信ヶ岳～戸渡尾根分岐～◎＝浜松 5:57 7:20 9:20 9:52 10:34 13:45

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【◎～山ノ神】三富の道の駅で仮眠を取って、朝、駐車場に移動する。沢装備の人と散策スタイルの人とが混在していた。西沢溪谷への遊歩道から右手に鶏冠山の看板が出ており、一般道？と思いながら入って行くが、踏み跡程度の道は崩れた斜面を下りていたり、なかなか悪かった。鶏冠谷で川を渡って休憩している女性3人組に追いつく。そこから左岸の踏み跡明瞭な巻道を歩く。男性2人組に追い越される。山ノ神手前で休憩し、そこで沢装備を整える。

【山ノ神～テント場】山ノ神から沢沿いに歩く。水量は少なく、ほとんど膝下なので、沢の真ん中を歩き、小さな滝は水の中を快適に登る。左右から入るスラブ滝なども水の流れよりもスラブの迫力に圧倒される。途中、4人組が追いついてくる。単調になってきた沢を足元を見ながら歩いていると、後ろで松野さんが足を滑らせて声を上げた。分岐に気を取られて…と言われて前を見ると沢が金山沢と分かれる二股だった。危うくぼんやり真っ直ぐ行くところだった…。右に進路を取り魚留の滝に出る。コ-スグイドに倒木を使って巻くと書かれていて、写真で見たことのある倒木が右岸に一本立っていた。まさか…と書いていたけど、本当にその倒木を足がかりにして登った。巻くと千畳のナメに出る。誠に涼やかなナメで、思わず寝そべて背中汗を流した。ナメを過ぎると、沢は倒木などでやや荒れた感じを受ける。野猿の滝を巻き、両門の滝に至る。左岸から巻いていると西侯の方で落石の音が響いた。迷い沢を過ぎてもう1本の滝を右岸から巻いて行くと、左岸がテント場適地となる。時間的にまだ少し早いと思いながら歩いていると目の前に苔むした真ツ平な場所が。一段下に砂地があり、川も近い。一発でそこをテント場に決めて行動終了。好天続きで流木も乾いており、焚火も一発で着いた。

【テント場～甲武信ヶ岳】テント場からしばらくはコ-ロ歩き。水流もなくなり、このまま遡行終了かと思ったけど、水師沢が近づくと再び水流も現れる。水師沢からはナメが続く。単独の男性を前方に発見する。木賊沢出合の辺りの滝を巻こうと踏み跡&テープに導かれて入るとすぐ悪い巻きだった。松野さんは前回、滝の際に登ったとか。下りた所から尾根に踏み跡が続いていたのでもう終了と思って靴を替えるが、しばらく行くとまた沢に下りた。沢靴でなければ歩けないようでもなかったのもそのまま沢沿いに詰め、水小屋に至るとそこからはしっかりした登山道がコルまで続き、今度こそ遡行終了。甲武信小屋に荷物を置いて甲武信ヶ岳をピストンする。

【甲武信ヶ岳～◎】下りは木賊岳へ一旦登り返す。風化した花崗岩の斜面で展望が開け甲武信ヶ岳を振り返る。戸渡尾根は、尾根も細く、傾斜もきつく、かなり下部まで神経を使った。

【その他】全体を通してテープや案内板などが結構あり、マジャな沢であることを再認識した。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



水量少なく、平和な沢…



千畳のナメ



東のナメ沢



両門の滝



魚留の滝…と、倒木



源頭部